

PHD LETTER

103

2007.6

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

- 2007年度 事業計画
- 研修生レポート 25期生紹介
- 同じ買うなら、使うなら！「寺ちゃん納豆」

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをさきあげて、平和 (Peace) と健康 (Health) を担う人づくり (Human Development) をすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

発行：財団法人PHD協会 理事長 今井 鎮雄
編集人：藤野 達也
住所：〒650-0022 神戸市中央区元町通5-4-3
元町アーバンライフ202
TEL 078-351-4892 FAX 078-351-4867
E mail：phd@mb1.kisweb.ne.jp
U R L：http://www.kisweb.ne.jp/phd
定 価：100円
郵便振替口座：財団法人ピー・エイチ・ディー協会
01110-6-29688



ビルマ ヤンゴン 撮影：FUJINOT.

日本でも最近、外にイスとテーブルを並べたお店が目につくようになったけど、ここビルマでは昔から。これぞ、元祖オープン・カフェ。微妙な低さのイスと台。スターバックスとか、いません。

PHD協会 2007年度 事業計画

原点の再確認

PHDの提唱者である岩村昇先生が亡くなられて一年半がたちます。ネパールから戻りPHDを呼びかけたのが1981年、この6月で27年目に入ります。先生がこの活動に託したものは、モノ、カネを持てる私たちから、持たない人々にあげて解決するというものではありませんでした。世界の多くの問題の根本的な原因がどこにあるかを考え、そのいくつかが人間の過ぎた欲望の追求によって起きていることを、ネパールの経験をまじえて説きました。そしてその対処法として日々の「分かち合い」の実践を呼びかけたのです。その分かち合いをPHD協会が「平和と健康を担う人づくり」という形で事業化し、草の根の交流を継続してきました。これまでにアジア、南太平洋から日本に引き交わった人たちは、250人を数えます。

日本に招いた人だけでなく、帰国した彼らにつながる地域の人々の数も相当数になります。一方で彼らを支え接し、学びを得られた日本の皆さんの数も半端ではありません。

07年は、日本を含むアジアと南太平洋の草の根に「平和と健康を担う人」を増やしていくPHDの働きの原点を大切に、活動をすすめていきたいと思ひます。

研修

昨年度と同じくタイ、ビルマ、インドネシアの村から一各ずつの研修生の招聘です。今年度は研修サポーターにもさらに深く関わってもらい、研修の質を高める一方、研修指導者の方にも協力を呼びかけ、海外調査・フォローアップ事業にもより力を入れていきます。

■ 国内研修

現場研修だけでなく、研修の合間に行う準備と振り返りを大切に、研修の質を高め、研修生の理解度と満足度を高めるように努めます。

また、研修生の要望の変化に柔軟に対応できるように、余裕を持って計画を立てます。

さらに今年は農・林業関連の行事に、より多くの皆さんに参加してもらえよう、広報を工夫していきます。

■ 海外調査・フォローアップ

恒例のものに加え、7月下旬にはネパール訪問を実施予定。さらに来年、久しぶりに指導者のフォローアップツアーの実現に向け、現在日程を調整中です。年間5回の海外調査で、招聘中の研修生の出身地域以外にも帰国研修生の活動状況をつかみ、今後の活動に備えます。

啓発

海外で起こっている問題だけではなく、そこに繋がる日本国内の問題、とりわけ私たちの身近な地域に目を向けていけるような取り組みをしていきたいと思ひます。

■ 行事企画

ボランティアの方々がより心地よく関わることができ、さらにもう一歩踏み込んで、主体的にプログラムが体験できるような環境を充実させていきます。

■ 広報

チラシ類には今までにない発想、目を引くデザインや色合いに挑戦し、できるだけ多くの方に手に取っていただけるような工夫をしていきます。

またホームページの充実、他団体との連携による情報の交換、発信を行います。

■ 物品販売

協力をはじめて17年になるカレンの布は、新しい販路の工夫を検討します。また今年は半袖に加え、オーガニックコットンを使用した長袖Tシャツを販売します。

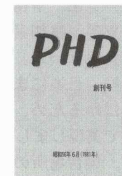
東西南北 問題解決 取組日記

27年目の今、
改めて岩村メッセージとは

新しい職員にPHDとは何かを説明しようとするために、岩村昇先生のPHD提唱にあたっての文章を読み直してみた。

PHDのやっていることは、国際協力の活動として括られる。それは間違いではないのだが、はじめに外国ありきとはうたわれていないのだ。PHDを始めるきっかけとなった国際ロータリーの国際理解賞受賞スピーチの最後にこうある。「私とあなたの生活の現場、家庭で、職場で、今まで自分のためにしか使っていなかった時間、智恵、知識、技能、技、物心両面の10%を献げて、それを必要としている人々と共に、“平和をつくり、健康をつくり、人をつくる運動”を今日から始めましょう」と。

いきなり外に対して直接働きかけるのではなく、まずは自分の生活の中での実践を呼びかけている。



81年に配られたPHD誌

世界の各地にある多くの問題は、より弱い立場の人々を苦しめている。一方物質的に豊かな生活を得ている人々も実はいくつもの問題を抱えている。この状況の原因は、「欲望追求の経済と政治の力学がもたらすもの」であり、これに対抗する別の動きをおこしていかなければ、自らのもてるものの一部を、より必要とする人々に献げよう、と日本の社会に訴えたのだ。

各地の地域の問題に取り組む人を研修事業の中で育て、またその事業を支

えること自体が、その参加者一人一人を育てる複合的な狙いをもっている。対象場所をあえて問わないまに「人づくり」の活動であることを改めて認識した。

大学で話したこと

今年度もいくつかの学校でお話しする機会を与えられている。4月のおわりに京都の大学で2回「ボランティア組織論」という講義を担当した。学生数は90人くらい。立法や行政の本来の役割、NGO/NPOとは、ボランティアとは、そしてその中で好ましいものはを学生たちと一緒に考えた。感想を書いて提出してもらったが、「久しぶりにモノを考えた」というのが多く、うれしく思った反面、いつも学校で何しているのと言いたくなってしまった。自分の大学時代を思えばエラそうなことはまったく言えないけれど、社会に向きあわずして、世界の平和や環境をキチンと考えることはできない。

その考えることのもとなる情報がどのような背景のものなのかを知ってつきあうことも大切である。マスメディアが伝えるものが正しいとも限らない。小さくても大切な情報を発信すること、そこにNGOのひとつの存在意義があるようにも思う。PHD協会もつきあう地域の人たちから得られる草の根の意見をお伝えしていきたい。

写真雑誌をみて思ったこと

DAYS JAPANという月間の写真雑誌がある。良質のフォトジャーナリズムを感じさせる雑誌だが、5月号は第3回DAYS国際フォトジャーナリズム大賞発表号だった。イラクの米兵パトロール、小児ガンと戦う母子、ネパールの政治

状況など、世界の課題にカメラが向かっている。それぞれに訴えてくるものがあつたが、一番印象に残ったのは、賞の審査員の評にあつた。選ばれた作品はすべて国外の題材であつたが、「日本からの応募者の中に日本の社会的病理の蔓延に目を向ける人がいないところが日本社会を反映していると思つた—江成常男」「国内の諸問題に対し、我々が緊張感を持って対応していない表れですが、そのことが一番問題なのでは—広河隆一」と。確かに日本の中には見えやすい戦闘状況やあからさまな貧困状況はないかもしれない。ところが確実にこの国を侵していつている重大な問題があるように思う。それが目に写りにくいことが、より問題をひきおこす原因は外に向いたときも、決していい出来事をもたらすことはない。同時に読んだある作家の『貧困の背景』（新潮社）には、日本の社会格差なんて甘い、アフリカやアラビアの状況の厳しさを知れとあつた。たしかにそうであるとは思ふ。しかし日本の問題は、まだ一部しか表面にでてきていない。解決しようと思うと、途上地域の問題解決よりかえって難しいような気がする。

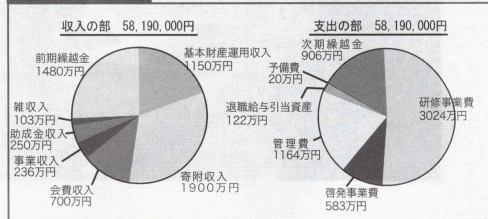
総主事代行 藤野達也



DAYS JAPAN5月号

総務・財務

2007年度予算



■ ここ数年、寄付金ならびに会費収入で厳しさが続いております。寄付金収入では、これまでの協力者・諸団体をはじめ、奉仕団体や労働組合等に対する取り組み、講演や交流会などからの新規支援層の拡大に努めていきます。

■ 事務局内の連携はもちろんのこと、役員、評議員はじめボランティア・協力者などから協力を得ること、講演、交流先での新規会員の獲得、支援者の拡充のための方策の工夫等に努めていきます。

■ 協力関係にある諸団体との協働によるプログラムやスタディツアーなどの充実にも、それらを通じてPHD活動への支援者拡大を図ります。

25期生研修生レポート

チャーユンさん

男性/37歳/タイ

常に柔和な笑顔を絶やさないうチャーユンさん。来日前は年齢的なことから日本語の習得が少々心配されましたが、外を出歩く時も常にメモ帳を携帯し、気になる言葉を暗記しています。日本語復習ボランティアさんと勉強を兼ねて出かけたホームセンターでは大工道具に熱心に見入っていた様子。村では実際に家を建てることもある一家の大黒柱です。

ヘルマ・イエニさん

女性/22歳/インドネシア

一番若手のヘルマさん。来日前は隣村に住む帰国研修生のところまで30分の距離を日本語勉強のために通いました。その甲斐あって会話は一番上手です。目が悪いため最近では眼鏡をかけていたり、その日の気分がイスラムの被り物ジラルバツ(ブ)をとったり、もうすっかり日本の生活に溶け込んでいます。

ティダさん

女性/35歳/ビルマ(ミャンマー)

ティダさんは、来日前に保育園で共に働くムームーさん(93年度)から日本語を教えてもらってきました。読み書きは他の2人に負けません。ホームステイ先では子供用の絵本を使い、ホストファミリーと一緒に日本語の勉強をします。来日後しばらくは一人での行動が一番不安気でしたが、分からないときは人に尋ねることもできるようになりました。



セバタクロー大会 中央左からヘルマさん、チャーユンさん、ティダさん

日本語の教室をのぞきました。

神戸YMCA学院専門学校の今日の担当は太田和宏先生。9時30分から12時まで午前の授業、13時30分から15時まで午後の授業。4人の先生が週5日間、PHDの研修生への日本語研修を担当されています。

今日、5月9日(水)は、比較級、最上級の勉強。「飛行機と船ではどちらが速いですか?」「日本ではどこが一番人が多いですか?」といった質問。「難しいです。難しいです。」に加えて「雨です。雨がないです。」ん?これは少し難しかったようです。

授業後、3人の日頃の様子を伺ってみると「3人も非常に真面目。休み時間中もノートを取って勉強しています。日本語を吸収しようとする姿勢が伝わってきて、こちらでもできるだけいろいろ教えたい。」と言われました。何かエピソードは、との質問に対して「時々聞き取りにくく、話がずれてしまうことがあり、それが思わぬ文化や習慣の話になることもある。今日も教科書で

『名古屋』という単語が出てくると、突然ティダさんから『水かけ祭り』という単語が。話すうちに、ビルマの伝統的なお祭り、名古屋でも先日お祭りがあったということが分かりました。文化の違いはおもしろいです。」と言われました。今後は研修先で役立つような会話表現を勉強する予定です。最後に宿題の返却があり、プリントには3人とも「よくできました」の判が押されています。

YMCAの授業の後には、PHDの事務所でボランティアの先生と勉強します。「また明日!」と帰っていく姿を見て、3人の日本語はたくさんの方の「日本語」が支えていることを実感しました。日本語学習もあと半分。研修で大いに成果が発揮されることでしょう。



セバタクローで仲良く!

桜の花が散る代わりに、新芽の芽吹きが新しい出会いを迎えてくれます。4月14日、日本に到着してまもない研修生を囲んで、「セバタクロー大会」を大倉山公園で行ないました。参加者は、PHD国内研修生、インターン生、事務所ボランティア、スタディツアー参加者などで作られた、「PHDユースチーム」です。今回のスポーツ企画は、日本にまだなれない研修生と交流をはかるため、ユースチーム側からの提案で実現しました。10人をこえる参加者に、集合場所の事務所内は満員御礼状態でした。

セバタクロー経験者はチャーユンさんだけでしたが、チャーユンさんが中心となり自らボールを蹴り上げ、ボールを回してくれることにより、みんなすぐに慣れることができました。研修生との距離を格段に縮めることに成功。研修生は5月末までYMCAで日本語研修。その期間中は新しいPHDの担い手であるユースメンバーも日本語ボランティアに回りました。しかし、単にボランティアと研修生という関係でなく、これから1年間、PHD協会の次の世代を担っていく者同士、互いに「高めあう」気持ちで新たな関係を作り上げていきたいです。

06年度インターン生 藤原西児

お世話になっています。3軒のホストファミリー。



井上昌代さんとヘルマさん
(神戸市中央区)

庭の草刈りなども鎌を使って短時間できれいにしてくれるそう。玄関脇に置いてある牛乳箱に庭の落ち葉が詰まっている。ヘルマさん、ゴミ箱だと思ったみたい。



木下弘睦さん、佳志子さんと
ティダさん (神戸市北区)

お鍋を金のタワシでひたすらごしごし。お陰で黄色の鍋が銀色にピカピカ。お鍋に穴があいちゃうよー!とお母さん。



徳永大輔さん、広子さんと
チャーユンさん (加古川市)

チャーユンさんの「辛い」と徳永さんご夫妻の「辛い」にはかなりの差が。少し辛いと言ってチャーユンさんはとうがらしをそのまま食べていたそう。

フィリピン

比較研修旅行

3月中旬、24期研修生三人と共に一週間のフィリピン比較研修に行ってきました。現地では研修を調整してくれたのは、バゴンシカット村のGBPという生活向上のための住民グループ。メンバーであるPHDの過去の研修生たちが温かく迎えてくれました。彼らの活動の様子を報告します。

現在、GBPは、フィリピンのサフルディというNGOの支援を受け、月に一度の診療や薬草活用の講習会などの保健衛生プログラムを主に行っています。また、大豆から作ったコーヒー(おいしかった!)の販売に新たに取りかかろうとしていました。それぞれの仕事の合間をぬっての活動は、特に男性にとって大変なので、より活動の意義を伝えメンバーを拡大することが課題のようです。

ロナルドさん(05年度)村では期待の星!?GBPの活動に、農業の仕事に、他のNGOのボランティアにと大忙し。本人は「ぼちぼちがんばります」。

ハイディさん(04年度)GBPの書記として明るく活動中。家では飼育していた豚が子どもを産みました。

アンディさん(03年度)伝統品種の稲の有機栽培を普及するNGO「マシバグ」で働いているそうです。かわいい赤ちゃんを抱いた奥さんに会うことができました。

ミノさん(96年度)玉ねぎ栽培に忙しい毎日です。この地域一帯は玉ねぎの産地で、見渡す限り畑が広がっています。しかし天候に大きく左右されたり、中国や台湾から安い玉ねぎが輸入され、価格が下がったりと問題も多いようです。

エディさん(99年度)04年の台風で被害があったという田んぼは、なんとか使えるようになりましたが、まだ泥が深くて十分に世話ができません。稲の生長はいまひとつ。他の農作物の世話にも忙しいようでした。

ヨリーさん(93年度)体調を崩していましたが、今はまずまず良好。病院にはお金がかかるので、よほど悪くないと病院に続けて通うことはできないという村の現状を聞きました。

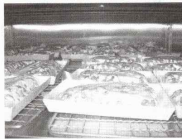
24期研修生たちは、フィリピンでの生活をしみながら、日本での一年間の学びを自分たちの村でどう活かしているかかと思いをめぐらせていました。研修生や村の様子はここでは語りつくせないのですが、PHDホームページ上に私が撮ってきた写真を公開します!どうぞ覗いてみてください。

06年度国内研修生 上田浩代

同じ買うなら、使うなら!

No.8 寺ちゃん納豆

但馬産の栄養満点、愛情たっぷりの「寺ちゃん納豆」を紹介します。舌先ではなく心で味わってほしいと言われる寺田さん。その思いをお伝えします。



「出石そば」で知られる兵庫県豊岡市。自然豊かなこの地には他にも名産品がある。寺田まさふみさん手作りの「寺ちゃん納豆」がそれだ。

市販品よりも大粒の国産有機大豆を使用した寺ちゃん納豆は、弾力があって食べ応えがある。また粘り気が強く、細い

糸を無数に引いているのだが、ネバネバ感の口の中にいつまでも残らない。不思議なことに、納豆を入れた器も水でサッと洗い流せる。そして口いっぱいに広がる豊かな風味。葉味などを加えて食べてもよいが、納豆特有の匂いもしつくないので、できればかすかなしょうゆ味だけで、その風味と旨みを存分に味わいたい。

寺田さんは無農薬有機農業を始めて20年のベテラン。やせた土地でも栽培でき、かつ栄養価が高いことに魅力を感じたことから大豆の栽培を始めた。その大豆で何かできないか?と考えたのが納豆づくりのきっかけだ。

原料の大豆は購入しているが、「いずれは自分で育てた大豆を使いたい」と語る。目下、自分の畑に最も向いた品種を模索中とのこと。そのうち寺田さんの完全オリジナル品を味わえるかも。

一方、農業を通じて日本の「食」の現状に危機を抱いている。有機JAS認定が国内の大豆生産量を低下させ、外国産の輸入量をかえって増やしているのだという。

「結局、自分たちが食べるものは自分たちの土地で生産するべきでは。世界中から安価な大豆が手に入るグローバル化の流れに反するかもしれないが、自給自足を目指す農業をこの地で実践していきたい」と熱っぽく語る。

そんな寺田さんの思いが込められた手作り納豆をぜひ一度ご賞味あれ。

菅原宗晋



お問い合わせ先

寺田まさふみさん
〒668-0204
兵庫県豊岡市出石町宮内452-7
tel : 0796-52-6146
ご希望の方には、お送りします。詳しくはお問い合わせ下さい。

5月13日

フェアトレード・デー

毎年5月、北野工房のまちで開催される「KOBE発 国際フェアトレードデー」のバザー。ソディの皆さんとカレンの女性による草木染めの布を販売しました。

今年は神戸まつり協賛イベントとなり、民族音楽や糸紡ぎの実演、機織りの実演などイベントも盛りだくさんで大変賑わいました。布の優しい色合いは、他のブースと異なり個性的で、興味深く手にとって見る方が多かったです。可愛くできたディスプレイも好評でした。



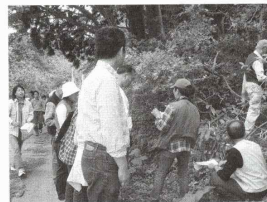
3月17日

研修生帰国報告会



第24期研修生の帰国を前に、日本での一年の研修生活を振り返り、帰国後の抱負を語る報告会を神戸市青少年会館で60人の参加を得て行いました。

その後の食事会では、研修生3人は「涙そうそう」を披露しました。



兵庫県養父市にある妙見山自然の家で但馬農業高校但馬問題研究部主催の「野草を食べる会」に研修生3人とボランティアの皆さん、職員が参加しました。絶好の山歩き日和。イタドリ、ヨモギ、ハナイカダなど、説明を受けながら野草採りを楽しみました。夕方からは交流会。自分たちで採った野草をその場で揚げて味わいながら、自己紹介に活動紹介と、野草を通して人の輪がまた1つ広がりました。

5月12・13日

野草を食べる会



ソディとはカレン語で卵のこと。タイの布のグループを支えるボランティア・グループです。

昨年ひよんなことからPHD協会のボランティアとなり、研修生のボーディーヤさんと出会ったのが「ソディ」に参加するきっかけです。彼女はもともと「ソディ」が支援する布のグループを代表して来ていました。

ボーディーヤさんは自分の「織り機」

を持参しており、私たちは実際の「織り」をたくさんの人達に見て頂きたいと思っていたところ、3月3日に神戸市青少年会館で行われた「タイスタディツア一報告会」に、その機会を得ました。

満員の入達で熱気ムンムンの中、報告会はずすみ、草木染めの方法の説明のあと、いよいよ実演です!

わあーっとボーディーヤさんを囲み質問せめ!その簡素な「織り機」、また彼女の技術にも感心しきり。

あつという間に時間がきて、終了! 村の女性は、伝統的な柄や織りを守り、農閑期になると、織り手として活躍しています。

でも、日本だけではなく村の人々の生活も便利になるにつれ伝統的なものから遠ざかっていくようです。伝統的

なものを守り続けるということは、どこにおいても、簡単な様でとても難しいことのようなのです。

彼女とのかかわりをきっかけに、いつか彼女の村を訪問し、ずっと草の根の交流を続けていければと思っています。

安木千恵



ボーディーヤさんの実演

新たな旅立ち・新たな出会い



左から因幡、佐藤、川原、三輪

因幡美奈子

たった2年間という短い期間ですが、PHD協会で多くの方々とお会いし、またたくさんの方々に支えていただいたことに感謝しています。

以前の自分の生活を振り返ると、資源を無駄にしたり、環境の問題をどこか自分とは無関係なことのように感じていたところがありました。でも、研修旅行や研修生との出会いを通して様々な問題を目にしたり、それが自分と無関係だと言いきれないことを学び、少しずつですが自分の生活を見直したり、考えたりするようになったことは、大きな収穫だと感じています。

2年間どうもありがとうございました。

因幡が紹介する

三輪望さん

様々な土地を転々としてきた私と違って、三輪さんは姫路生まれ、姫路育ち。PHDの前は、国際交流協会で5年勤務していました。

私との共通点は、韓国をこよなく愛しホームステイも体験したことがあることです。共にこの韓流ブーム以前に韓国に注目し、いち早く韓国の魅力にとりつかれていました。また、学生時代にはスペインにも留学経験があり、さらに英語も堪能ときました。

こんな国際的な三輪さんが、今後は国内の問題にも多くの皆様と一緒に取り組んでいくのでしょうか。

佐藤栄利子

手作りのものには何かしらの物語があるということ、研修生、PHDに関わる方々から教えてもらいました。健康な体の基になるもの、身に纏うもの、工夫を凝らした使い勝手の良いもの、そういうものを作り出せる人にこそ力があるということを知りました。

これから私が大切にしたいこと。特別大きな何かを期待するのではなく、日々の暮らしの中で感謝をしたり、幸せを感じたり、発見をしたり、時々失敗しても、へたくそでも、私らしい手間暇かけた手作りの生活。PHDで学んだことの実践編はこれからが本番です。

みなさまとまた笑顔で会えることを楽しみにしています。ありがとうございました。

佐藤が紹介する

川原桂さん

PHD協会 in 神戸に、久しぶりの生粋神戸っ子です。ビルマ語を話せるという得意技で、昨年、研修サポーターに立候補してくれたことから関係が始まり、今年の5月からは職員として華やかさを運んで来ています。「まずは、事務所の整理整頓!」小柄だけどバワフルです。

旅好き、ゴスペル好き、アジア大好き、人も好き、とにかくいろんな引き出しをもっています。川原さんの持ちネタが、これからどんな風にPHDと共鳴していくのか楽しみです。

PHD NEWS

◆会費・ご寄附寄託状況

2007年2月	99件	¥ 1,575,023
3月	68件	¥ 1,176,760
4月	40件	¥ 405,992
207件		¥ 3,157,775

以上の通り、皆様より多くのご浄財を頂戴しました。心より感謝申し上げます。新しい年度に入り、気持ちをあらたにしながら、引き続き皆様より、会費ならびにご寄附のご協力をいただけますよう努めて参ります。

◆倉庫スペースありませんか。

90号でもお願いしましたが、これまでに蓄積されてきた書類や備品類の保管場所を探しています。神戸近郊で場所があると助かります。よろしくお願ひします。

◆今年度も外務省「NGO相談員」です。

ここ数年受託している外務省のNGO活動環境整備支援事業の一つである「NGO相談員」を、今年度も受託しました。国際協力に関する質問などお受けしております。お気軽にご質問、ご相談下さい。



夏のスタディツアー

ビルマ・スタディツアーの日程が変わりました。

第21回インドネシア・スタディツアー

西スマトラ州の山村と漁村でホームステイをしながら、村の人々の生活改善のための取り組みを学びます。
 日程 8月22日～31日早朝（9泊10日・関空発着）
 参加費 既会員 194,000円
 新規会員 199,000円+年会費5千円
 申込締切り 第1次締切り7月28日

第9回ビルマ・スタディツアー

マンダレー近郊にある2つの村を訪問し、学校や幼稚園、村のお寺を見学し、村人と交流します。
 日程 9月4日～11日早朝（7泊8日・関空発着）
 参加費 既会員 198,000円
 新規会員 203,000円+年会費5千円
 申込締切り 第一次締切り8月4日

◆林業体験合宿

7月21、22日の1泊2日、兵庫県篠山市で下草刈りを行います。山で下草を刈り、日本の林業の現状や課題を考える合宿です。担当高垣まで。

第12期国内研修生募集

国内でも平和と健康を担う人材を育成しようと95年より実施している国内研修生制度。

募集要項をお送り致しますのでお問い合わせ下さい。

内容：PHDの事業を通じた実施研修

- 1) 海外研修生の研修事業を軸とする実践
- 2) 国際理解・開発教育等国内に向けた啓発活動
- 3) 公益法人における組織運営

対象：日本国内居住者、日本語でのやりとりが可能で、将来、開発協力・教育・福祉等の分野で働くことを志し当事務所に通える方。

研修日程：10月より6ヶ月間（週3～5日）
 1月に国内、3月にフィリピンへの研修旅行あり。

時間：原則午前9時～午後6時

支給経費：研修手当及び交通費

選考：書類審査後、筆記・面接

（9月上旬を予定）

募集締切り：8月17日（金）必着

〇月×日のPHD協会

今期研修生チャーユーさんは、村の教会でギターやオルガンで賛美歌の伴奏者。日本にタイの楽器も持参し、各地の交流会に備えています。それにちなみ職員と楽器をテーマの〇月×日。

職員 川原 練習が嫌でエレクトーンは小2迄。20才過ぎてギターに挑むも力まかせのチューニングで弦を切って縁を切る。残るは歌。時折、人前でも。

職員 三輪 小さい頃、泣きながら練習する姉を見て、何と怖いものかと自らは近寄らず。そのピアノ、今は部屋の一角で私の机がわりで役に立つ。

職員 高垣 時期もはつきり思い出せない昔、ヤマハ音楽教室に通い、ピアノを練習したそう。一段落したところで妹にバトンタッチ。あとは触らず。

職員 藤野 高円寺のジャズ喫茶のバイトあがりで聴く方はうるさい。Fのコードで挫折のギター、騒音発生の特ランペット等、演る方はうるさいだけ。

職員 佐々木 音楽的才能の5段階評価はけしからんと昔を思い出し、いきどおる。ならば全くの縁なしかと思いきや、バイオリンを習われた過去が。

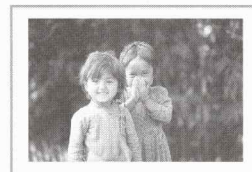
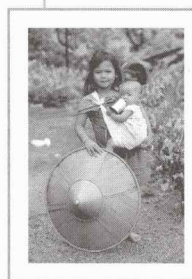
（出身地が事務所に近い順）

編・集・後・記

心配しながらの編集作業も終盤へ。編集後記は誰が書く？「顧問、お願い」「もう来んもん」とだじゃれが飛び交い、なんとか完了。

制作協力：菅原宗晋 増本一朗 カニ味噌
 松本"顧問"直樹 坂井時和

PHDの Tシャツ・絵ハガキ



白地

黒地

記念品、お返しなどにもお使いください

アジアの子ども絵ハガキ 500円（8枚組）

オーガニックコットンのTシャツです

Tシャツ（半袖）
 XS、S、M、Lの4サイズ
 各2000円

・再生紙を使用しています。